

多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について (審議のまとめ(たたき台))【概要】

資料1-2

- 令和6年12月25日、文部科学大臣より、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について、中央教育審議会に諮問。
- 令和7年10月15日、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会において、上記諮問を踏まえた議論の論点整理を提示。

多様な人材を教師に導くとともに、教師を生涯にわたって学び続けられる魅力あふれる仕事にできるよう、以下の改革を実施。

審議のまとめ(たたき台)のポイント

1. 教職課程を厳選し、より多様な有為の 人材が教師を目指せる環境を整備

- 教員免許取得に必要な共通的な学修の単位数を厳選し、併せて強み専門性に係る学修を位置付け
 - 全体の単位数を厳選して負担の軽減を図りつつ、強み専門性に係る学修を含めれば現状に近い単位数を担保
- 免許状を、基礎的な免許状・標準的な免許状・上級の免許状に再編(仮称)
- 持続可能な質の高い教育実習の実現に向けた検討
 - 教育実習の単位数のうち、一部を学校体験活動にすることを努力義務化
 - 上限の設定や様式の統一等ガイドラインの作成に向けた検討会を設置

2. 養成・採用・研修を通じた質の担保 (入職時点で必要な資質を担保し、継続的に伸ばす)

- 指導要領改訂と連動した教職課程の抜本的アップデート
 - (例)「教育データの活用及び人工知能/情報機器の活用」、「教育の方法・技術及びデジタル学習基盤」、「幼児、児童及び生徒の個々の多様な特性の理解と包摂」、「学級経営」の追加など
 - 中学「情報・技術科」(仮称)創設に対応した免許制度の在り方や体制整備等の検討
- 教職課程の学生の到達状況を把握するためのCBTの導入
 - コアカリキュラム・CBT(教職課程)・教員採用選考の内容をそれぞれ連動
- 大学内・大学間連携等を通じた教職課程の維持・確保及び指導体制の充実
- 学び続ける教師の為の研修の充実
 - 指導要領改訂も踏まえた研修の充実等を検討

3. 多様な社会人等が教職へ参入 しやすくなる方策の導入

- 特別免許状の授与判断を容易にするため、授与の基準等をより明確化
- 免許状授与の適格性判断の方法について、多様な手段の導入を検討
 - (例)教員資格認定試験の弾力的な運用や大学院等での学修をもって特別免許状等の能力立証に活用する、等
- 高専卒業者の免許取得を可能に

4. 教職の魅力向上

- 大学院修学休業をより多様な研究や活動も対象とできるよう抜本的に拡充
- 教師になった者への学部段階の奨学金返還支援の在り方等について

➡ 子供たちの学びの要である教師の質と量を持続的に担保し、子供一人一人の学びを最大限引き出す。